

議 事 録

会 議 名	令和 7 年度第 2 回うきは市総合教育会議		
■ 概要			
日 時	令和 7 年 1 2 月 1 5 日（月） 開会 1 7 時 3 0 分 閉会 1 8 時 0 5 分		
場 所	うきは市役所 2 階 庁議室		
出 席 者 (敬称略)	◆委員		
	1	市長	権藤 英樹
	2	教育長	樋口 則之
	3	教育長職務代理者	平位 秀敏
	4	教育委員会委員	家永 由里子
	5	教育委員会委員	處 愛美
	6	教育委員会委員	古賀 公彦
	◆事務局		
	1	学校教育課	
	2	生涯学習課	
3	企画政策課		
欠 席 者 (敬称略)	なし		
■ 次第			
1 開会			
2 市長あいさつ	権藤市長よりあいさつ		
3 議事	(1) 第 3 次うきは市教育大綱について (2) その他 議事の詳細については後述		
4 閉会			

■ 議事内容（発言要旨を記載）

（１） 第３次うきは市教育大綱について

【事務局】

それでは、第１回総合教育会議でいただいたご意見を踏まえ、今回の修正版にどのように反映したのかをご説明いたします。

まず、第３章の理念部分についてです。前回の会議では、委員の皆さまから、「理念が優しすぎる」「厳しい時代に向き合う力や課題解決力を示すべき」「うきは市の枠にとどまらず、社会や世界とつながる視点が必要」といったご意見をいただきました。これを受け、本修正版では「変化や困難に向き合う力」「外の世界との接続」を理念の中心に据え、文章構成そのものを見直しています。「一人ひとりの内に宿る灯が、多様な人や世界との出会いを通して磨かれ、未来を切り拓く力へ育つ」という流れが自然に伝わるよう、理念全体を再構築しました。

次に、４つの柱の再整理についてです。前回は、「柱の表現が具体的で、大綱としての抽象度と合っていない」「より大きな構想として示すべき」とのご意見をいただきました。今回の修正版では、「１．自己理解と自己肯定」「２．多様性とながら」「３．問いと探究による未来の創造」「４．すべての子どもが輝く包摂的な学び」の４つに再整理し、理念型の大綱としての抽象度・構想度を高めつつ、柱ごとの役割が明確に伝わる表現へ改めました。

続いて、多様性や個々の特性の活かし方についてです。前回は、「特異な才能を持つ子どもの視点をもっと前面に」「特性を弱みではなく可能性として捉える姿勢が必要」とのご意見がありました。これを踏まえ、第２章の課題整理、理念、柱４において「違いを尊重し、特性を力として生かす学び」というメッセージをより明確にし、包摂性を大綱全体の重要な軸として位置づけました。

また、体験活動や地域との関わりについてのご意見です。委員の皆さまから、「ICTだけでなく、自然体験や郷土教育を重視すべき」「フィジカルな体験が子どもを育てる」といったご指摘をいただきました。本修正版では、第２章・理念の双方において、地域の自然・文化・人との関わりを学びの中心に据える姿勢を明確にし、地域と世界の双方に開かれた学びとして表現を整理しています。

さらに、前回は、「学びが行動につながる当事者意識を育てる視点を入れるべき」というご意見もありました。これを踏まえ、理念本文および柱３に、「自ら問いを立て、行動し、未来を創る力」という要素を明確に位置づけています。

最後に、人権・いじめ防止・共生の視点についてです。委員から、「いじめや差別のない共生社会につながる教育を強調すべき」とのご意見をいただきました。今回の修正版では、柱４において、「互いの違いを受けとめ合い、誰も孤立しない環境をつくる」という内容をより明確にし、人権尊重を基盤とした教育の方向性を示しています。

これら理念と4つの柱の改訂に合わせ、他章の文脈も統一感が出るよう、表現を一部調整しています。以上が、前回会議でのご意見を踏まえた主な修正点です。単に加筆するのではなく、理念・柱・全体構成が一貫して伝わるよう、文書全体の骨格を整えております。

本日は、これらの方向性で最終版としてまとめてよいか、ご審議を賜れば幸いです。

【市長】

ただいま事務局から説明がありました。前回の議論を含めて、多くの箇所で修正等が入っております。委員の皆様からご意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。

【事務局】

前回の会議終了後、委員の方から具体的な修正案をいくつかいただき、そちらも参考にさせていただいております。今回、「灯（ともしび）」という表現を使っていますが、教育現場ではあまり耳馴染みがなく、委員の方々からいただいた修正案にもそういった表現は使われていなかったため、この言葉を使うかどうかについては非常に悩んでいるところです。

【委員】

やはり「まなびの灯」という表現は少し引がかかるというか、文学的すぎるように思います。確かに、人々の感性に訴える文学的な表現は大事であるし、それを否定はしないのですが、この「まなびの灯」という表現がうきは市民の心に響くかどうか、市民がどういう風に受け止めるのか、うきは市の教育の方向性の決め手になるかということ、少しぼんやりしていて分かりづらいと思います。

公文書で使われるような固い言葉を使う必要はないのですが、方向性を指し示すには、教育の場面で使われる分かりやすい言葉の方が良いのではないかと思います。「まなびの灯」という言葉を使わず、でも事務局が提案したストーリーは壊さないような形での表現をしていただけたらと思います。

全体の流れとしてはずいぶん分かりやすくなったと思いますが、もっと直接的な言葉でもいいのかなというのが率直な意見です。

【委員】

私も前回の大綱案に対して、具体的な意見を書かせていただきましたが、その内容についてはかなり反映していただきました。全体的に力強さが増して視野も広がり、良くなったと思いますが、まだ「灯」という言葉に引っ張られ過ぎている印象があります。基本理念の中に「灯」という言葉が入るのは良いと思いますが、柱は具体的な内容に入ってくる部分なので、ここにまで「灯」を入れなくてもいいのではないかと思います。

具体的に言うと、基本理念に「まなびの灯が未来を導く」、その後にサブテーマのような形で「ひとりひとりの心に希望の光を」とあり、このあたりの整合性があまり取れていないということです。あまり繋がりがなく、言葉遊びのような印象を受けるので、もっと具体性のある表現がいいのではと思います。

【委員】

文学的な表現が好きな方ではありますが、やはりこの「灯」は少し引っかかるなと思います。柱も全部「灯」が入っていますが、そこまでなくても表現できるのではないかと思います。

また、「しなやかに生きる」「問いを立てて」という表現も少し気になりました。大事な表現ではあると思うのですが、教育大綱なので違う表現でもいいのかなと思います。

理念は全部統一されていますが、「灯」だと優しい光に聞こえてしまうので、強い光を表現できる言葉があれば、今回の修正がもっと活きてくるのかなと思いました。

【委員】

前回、特に人権尊重の教育という点をお願いして、今回きちんとそこを入れていただいたので、非常にありがたく思っています。

「灯」という文言について、私は違和感があまりなかったので、皆さんからの意見を聞いて「そうなのかな」と思っているというのが正直なところです。

【市長】

委員の皆様から1人ずつ意見をいただきました。

私もこの会議の一員として発言させていただけば、この「灯」という表現が読み方によって、いろいろな意味に変化する点は、文学的には面白みがあるのだろうけれど、大筋の方向性を示すようなものでいろいろな解釈をされるというのは、あまりいいことではないのかなと思います。そういったところで、おそらく読み手側としてこの「灯」という言葉に少し引っ掛かりがあったり、違和感があったりするのではないかと、委員の皆さんの意見を聞いて受け止めたところです。冒頭、事務局から修正箇所を説明していただいていた時に用いていた文言を文章で表現していただければ、非常に分かりやすくなるかと思います。

【教育長】

「灯」とは何であるのか。「まなびの灯を育てる」とあるから、育てることのできる資質や能力のようなものなのか。先ほど市長もおっしゃいましたが、いろいろな捉え方をされるのは私もあまり良くないと思います。「灯」という言葉は非常に単純化された表現なので、根本的な方向性を指し示すものとしては、万人に共有できるスローガン、合言葉のように記憶に残る、かつ、分かりやすいものであってほしいと思います。

【市長】

大綱の中の「灯」がいくつかの解釈ができる。ある文章では、教育長が言ったような「能力」みたいなもの、別の文章では「熱量」「情熱」みたいなもの。同じ言葉で解釈が違うので、別の言葉で表現していけば、修正になるのではないかと思います。

【委員】

総合計画では「こどもまんなか」というのをしていますが、教育大綱は子どもの教育だけではなく、生涯学習の部分にも目を向けなくてはいけないかと思いますので、あらゆる世代の人が学び続けるとい

う視点も入れていただきたいです。

【事務局】

前回の大纲案では、「まなびの灯」がどういうものであるかについての表現が全くなかったので、今回の修正版には「この灯は、生まれ持った個性や心の熱がともす光であり、学びによって得られる気づきや広がる視野と重なり、自らの未来を切り拓く力として育っていくものです」という説明を加えました。この部分を、万人が共通の意味を思い浮かべられるように、より分かりやすく修正したいと思います。

委員からご意見をいただいた「しなやかな」という表現についてですが、文科省や OECD が出している教育関係の計画では、「レジリエンス」という言葉がよく使われています。「レジリエンス」というのは、単なる頑丈さではなく、「困難や変化に直面しても折れずに適応して回復する力」として定義されており、日本語で説明するときには大抵「しなやかな強さ」や「しなやかな心」といった言葉で表現されています。そのイメージが強く印象に残っていたため、今回の大纲でも「しなやかな」という表現を使っていました。いただいたご意見を踏まえて、もう少し強い表現というのでも検討したいと思います。

「灯」という表現には、先輩から受け取ったものを次へ渡す「聖火リレー」のような、連続性をもって光を紡いでいくというイメージも込めていました。「灯」という表現を使うにしても、皆さんが同一の解釈を想起できるようなものに修正していきたいと思います。

子どもの教育だけではなく、あらゆる人が学び続けるという視点も付け加えたいと思います。

【委員】

大人も子どもも含めて、地域にいる人たちが「うきは市はこういう風に進んでいく」という共通理解が生まれるような表現を期待します。

【委員】

複合された意味を持つ言葉でもいいと思うのですが、「この柱で使っている『灯』はこういう意味」というのを皆が共有できなければ、そこでいろいろと取り違えてしまうと思います。

【事務局】

市長からも意見があった通り、冒頭に説明した内容をしっかり文章化して入れたいと思います。

【委員】

「まなびの灯」というのは、子どもたち一人ひとりに宿っているというイメージがしやすいという意味では良いと思います。理念として冒頭に出てくれば、柱にはわざわざ入れなくてもいいのかなという気がします。

【事務局】

伝えなかったこととしては、柱1が「自分を理解する」「自己肯定」、柱2が「多様性と繋がり」、柱3が「問いと探求による未来の創造」、柱4が「インクルーシブ」「全ての子どもが光り輝く包摂的な学び」という内容になります。

【市長】

非常に分かりやすいと思います。その4つの柱をやっていくことで、「灯」の明るさが増して、強く輝けるという方向性でいいのではないのでしょうか。

【委員】

そこに生涯学習の内容を入れていただければいいと思います。

【事務局】

承知致しました。

【市長】

一通りご意見をいただいて、尚且つ、事務局の方にも皆様のご意見を十分ご理解いただけたようでございます。いただいたご意見を基に、事務局に最終的な案を作成いただきたいと思いますっておりますが、すでに2回の会議を重ねており、年末ということもございますので、最終版については作成ができましたら、郵送にて皆様にお送りさせていただき、ご確認いただくという形でよろしゅうございますか。

【委員】

はい。

(2) その他

議題無し。

以上